

「労働経済論」講義（川村雅則）が贈る、恒例の「団結剣」企画

若者と労働組合が出会うとき

—その意義と可能性を考える—

雇用・労働をめぐる問題の深刻さについてはここでは繰り返さない。

そんなときだからこそ、労働組合の必要性を伝えたい。

みんなが期待する「法律」も、労働組合あってこそはじめて機能するのが職場の実態なのであって、法律が自動的にみんなを救ってくれるわけではない（そのことは断言してもよい）。

もちろん、個々人で問題解決を図るという道もなくはないが、職場で働き続けようとするならば、また仲間や職場のことを思うのであれば、労働組合（集团的労使関係）という選択肢を決して放棄してはならない。いまはまだ、「ロードクミアイ？」という認識であったとしても。

（絵・野澤香里）

今回お招きするのは、（語弊があるかもしれないが）みんなと同じでフツウの若者だ。

だが、何時間働いても増えない残業代、1勤務30時間を超える働かされ方、そんな職場の現状に悩み、彼らは労働組合にたどりついた。そして彼らは変わった。職場もまた変わった。

彼らの経験、彼らを支えた労働組合、そんな「若者と労働組合の出会い」から学ぼうと思う。履修生以外の学生も市民のみなさんも参加できます（申し込み等は不用です）。

とき 11月28日（水）12：40～14：10

場所 7号館3階D31番教室

講師 札幌地域労組 書記長 鈴木一さん

同 田井自動車支部 支部長 橋本良太さん

札幌地域労組 <http://www.infosnow.ne.jp/~sgu/>

問い合わせ先 川村雅則研究室 011-841-1161（内2744）